

事務 事業名	コード1	33800	消防庫整備事業	事業 種別	☐ 国土強靱化地域計画	課	消防本部総務課				
	コード2				☐ 新市建設計画	所属班	消防団班				
施策 体系	施策の展開	30	消防力の強化		☐ 総合戦略	電話番号	63-5355	内線	82		
					☐ 復興計画	予算 科目	会計		款	項	目
					☐ 定住自立圏構想		一般会計		9	1	2
					☐ 行政改革アクションプラン		根拠 法令	消防組織法第18条第2項及び消防力の整備指針			
☒ 主要事業											
			☐ 簡易評価								

1 現状把握(Do)

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	既存の消防庫の内、耐震性に難があり老朽化が顕著な消防庫から改築を進める。消防庫は地域防災において重要な役割を担う消防団の活動拠点となる。 消防庫の建設用地は地元区で選定し、民有地の場合は地元区と地権者の間で貸借契約を結ぶ。 市は地元において用意された土地に消防庫を建築する。 【業務の流れ】 毎年2箇所程度ずつ改築する。 〈前年度〉地元で説明、建設地選定協議、構造の検討、予算要求→〈4月〉設計業務委託入札→〈7月〉設計図書納品→〈8月〉工事入札→〈9月〉工事業者決定、設計業者に監理委託、工事開始→各工程において適宜現場立会い・検査等→〈2月〉竣工

(2)トータルコスト

① 費目の内訳(26年度の実績)		単位:千円	単位	(決算)	(決算)	(決算)	(計画)	
1.設計・監理委託料	1,782	設計委託料(確認申請手数料含む)・監理委託料	千円	3,061	2,993	1,782	3,348	
2.工事費(消防庫改築)	11,230	26年度中に着工。2回払いのうち1回目支払済み	千円	29,925	35,282	11,230	40,911	
3.工事費(解体・撤去)	410	未使用となった古い消防庫の解体撤去費用	千円	1,873	1,829	410	1,960	
4.上水道給水申込納付金	0		千円	105		0	108	
			千円					
② 特定財源の内訳(26年度の実績)		単位:千円	事業費	事業費計 (A)				
1.国庫支出金		千円		34,964	40,104	13,422	46,327	
2.都道府県支出金	0	消防防災施設強化事業補助金		千円				
3.地方債	12,300	消防施設整備事業債(合併特例債)		千円	2,275	5,166	0	5,314
4.その他		千円		26,700	28,300	12,300	38,900	
		千円						
前年度比増減理由:度重なる入札不調による次年度への繰越のため事業費の大半が未執行			千円	5,989	6,638	1,122	2,113	
③ 延べ業務時間の内訳(26年度の実績)		単位:時間	人件費	正社員等従事人数				
土地の選定の協議・地元部・地区への説明・地元と地権者の契約手続の補助(20h)、各種事務手続き(40h 契約・申請・確認書等)、業者打合せ(5h)				延べ業務時間				
				人件費計 (B)				
			千円	570	570	247	570	
			千円	35,534	40,674	13,669	46,897	

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段

① 主な活動

26年度実績(26年度に行った主な活動)
第5中隊(干潟) 第2分団第1部 鉄骨造2階建て建設中
(繰越事業)

27年度計画(27年度に計画している主な活動)
鉄骨造平屋建て 2棟
・第4中隊(飯岡) 第2分団第2部
・第5中隊(干潟) 第1分団第1部

⑤ 活動指標名

単位

24年度
(決算)

25年度
(決算)

26年度
(決算)

27年度
(計画)

ア 改築消防庫棟数

棟

2

2

1(繰越)

2

イ 解体・撤去消防庫棟数

棟

3

4

1

2

ウ

目的

② 対象(誰、何を対象にしているのか)

・消防団

③ 意図(対象がどのような状態になるのか)

・消防団員が、活動の拠点として消防庫を安心して
使用できる。
・災害時には地域住民の一時避難所など、地域防
災の拠点としても活用できる。

⑥ 対象指標名

単位

24年度
(決算)

25年度
(決算)

26年度
(決算)

27年度
(計画)

ア 部数

部

47

47

47

47

イ 消防団員数

人

964

935

902

891

⑦ 成果指標名(考え方)

単位

24年度
(決算)

25年度
(決算)

26年度
(決算)

27年度
(計画)

築30年以内(耐用年数は目安)

棟

36

38

40

43

ア (全49棟の内)

イ ()

上位目的

④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか

市民が火災被害から守られる、火災による被害が最小限
になる、緊急時に人命が守られる

⑧ 上位成果指標名(考え方)

単位

24年度
(決算)

25年度
(決算)

26年度
(決算)

27年度
(計画)

ア 年内の消防団火災出場回数(誤報等含む)
(各火災における出場個部数の積算)

回

31
(223)

24
(179)

28
(276)

33
(176)

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
・消防団が設置された当時よりある。合併前(海上・飯岡・干潟)の消防庫は地元各区が主体となって消防庫を建てていた(自治体としての関与は補助金の交付)。消防団の活動拠点として市が建築することにより統一した消防庫が建築することができる。	・材料費や燃料価格の高騰、建設業界の人手不足等により、契約金額が年々増加している。	・地域防災の拠点として地元住民からの要望は高い。 ・建設用地の選定が難しい。候補地を見つけても無償貸与の契約を締結できない。

事務事業名	消防庫整備事業	課名	消防本部総務課	班名	消防団班
-------	---------	----	---------	----	------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 旭市総合計画の中において、消防庫の計画的な改築が盛り込まれている。
	② 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 各地域に設置されており防災拠点として活用できている。
	③ 行政関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 旭市としての計画的・統一的な整備を進める必要性、緊急時の防災拠点としての機能を担保する必要性、地元各区の財政事情の厳しさなどを総合的に勘案すると、市が主体的に整備を進めていくのが望ましい。
有効性 評価	④ 成果の現状水準	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 消防庫の耐用年数は30年程度を見込んでいる。使用中の消防庫は現在市内49箇所にあり、各消防庫の改築が一巡する頃には初めの頃に整備した消防庫が老朽化を迎える時期になる。 毎年2棟程度のペースでコンスタントに改築を行っていくのが望ましい。
	⑤ 成果の向上余地	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 消防庫に設けるべき施設機能は現時点でおおよそ揃っている。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業・代替事業が無い。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 (表面トータルコストの事業費部分)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 建設用地の広さや地盤の固さなどの条件によっては、工事費を抑えるため木造建での建設を検討する余地はある。
	⑧ 人件費の削減余地 (表面トータルコストの人件費部分)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 設計・施工・監理の各業務を外部に委託しており、これ以上の削減余地はない。
	⑨ 受益機会・費用負担の 適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 消防庫自体を利用するのは主に消防団員であるが、災害等発生時において市民への救助等災害に対応する拠点であり広く市民一般の利益に資する施設と言える。市が建築することにより統一した消防庫を配備できるので公平・公正と思われる。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	地域の防災拠点として大切な施設であり継続して維持管理に努める。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性 ☐ 目的再設定 ☐ 事業のやり方改善による成果向上 ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☐ 行政関与の見直し ☐ 事業統廃合・連携(関連事業：) ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化			(3) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上																								
	維持	○																							
	低下																								
(2) 改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？ いつまでに なにを、どうするのか？ ・28年度 ・継続事業 ・各班を統合する。 ・消防庫の木造建てを検討していく。																									
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ・班の統合は、地元区へ説明し理解を得る。 ・消防庫の木造建ては、建設用地の広さ、地盤状況等を関係機関と考察する。																									